MUSASHINO for TOMORROW Vol.98

巻　頭

音楽の力を信じて

人が人らしくあるために必要な音楽　戸田　敦

被災者にやさしく寄り添う音楽を　民里　元

海外音楽事情

モスクワ音楽院から世界の舞台へ ①

イリヤ・イーティン

表紙：ケマル・ゲキチ（ピアノ）

July 2011
vol.98

東日本大震災により被災された皆さまに
心よりお見舞い申し上げます

この度の東日本大震災により、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された皆さま、並びに関係者の方々に対しまして、心よりのお見舞いを申し上げます。

また、被災地の復旧と原発の修復に、命がけで努力されている方々に感謝し、一日も早い復興をお祈りいたします。この未曾有の震災、国難と呼べる事態に、私たちも一丸となって対処しなければなりません。

武蔵野音楽学園においても義捐金募集の他、以下のような取り組みを行っております。

被災地学校への楽器寄贈

文部科学省の「東日本大震災子どもの学び支援ポータルサイト」を通じて、
被災地の中･高等学校に多数の楽器を寄贈。その楽器を使用して避難所の慰問演奏も行われています。

節電対策

15%削減が指示されていますが、本学では入間、江古田両キャンパスのコンサートホールの使用を制限して、
15%を超える電力の削減を目標としています。

被災学生への学費の減免措置

自宅が壊れたり流失した学生への授業料減免措置を行います。

学寮入寮費の免除

自宅が被災した学生に対して入寮費を免除します。

休学中の学費の免除

被災に伴い休学する学生の授業料を全額免除します。

入学式、演奏会等中止した行事

大学卒業式、卒業演奏会、3幼稚園入園式などを中止すると共に、
第17回インターナショナル･サマースクール･イン･トウキョウ、数回の外国人客員教授による
演奏会などを中止いたしました。

本学ウィンドアンサンブル演奏会を「復興支援コンサート」として行い、東京で開催するコンサートの収益金を日本赤十字社を通じて寄託。また、本学園の卒業生、学生が、各方面でチャリティーコンサートや慰問の演奏活動を続けております。

学校法人 武蔵野音楽学園 理事長　福井直敬

音楽の力を信じて

東北地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした「東日本大震災」。誘発された原発事故の収束が見えない状況のなか、被災地では復旧、復興に向けた営みが着実に行われています。各方面から援助の手が差し伸べられ、音楽の力で復興をサポートしようという動きも活発です。

今号では、演奏活動で被災地にエールを送る仙台フィルハーモニー管弦楽団と自衛隊東北方面音楽隊に所属する武蔵野の二人の先輩に、これまでの活動や今回の震災にまつわるエピソード、そして武蔵野時代のお話などを伺いました。

戸田 敦 *Atsushi Toda*

愛知県出身。高蔵寺高等学校卒業。1988年武蔵野音楽大学入学、在学中に第8回日本管打楽器コンクール入選。'92年同大学卒業後、渡仏。パリ・エコール・ノルマル音楽院ディプロム・コンセルティスト、フランス国立ロマンヴィル音楽学校を卒業。その間にマリア・カナルス国際コンクールで名誉賞、第1回ブカレスト国際青年音楽コンクールで審査員特別賞を受賞。'95年帰国後、第7回日本フルート・コンベンション・コンクール第2位及びオーディエンス賞を受賞。
これまでに、フルートを村田四郎、佐久間由美子、工藤重典、ブノワ・フロマンジェ、室内楽を甲斐道雄、ミカエル・アンツ、パスカル・ルコール、エマニュエル・ニュネスの各氏に師事。現在、仙台フィルハーモニー管弦楽団フルート奏者('00年～)、武蔵野音楽大学非常勤講師。

人が人らしくあるために必要な音楽

戸田 敦
仙台フィルハーモニー管弦楽団フルート奏者／武蔵野音楽大学非常勤講師

ステージを滑るピアノ

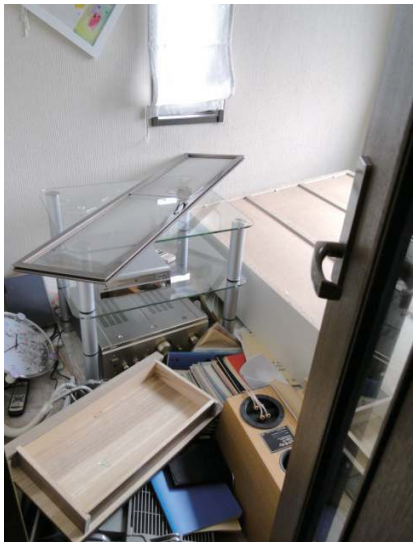
そのとき仙台フィルハーモニー管弦楽団(以下、仙台フィル)の楽団員は、夜に開催されるコンサートのゲネプロを直前にひかえ、仙台市青年文化センターにいた。戸田さんはフルートのメンバーと、ロビーで打ち合わせをしていた。まるで船に乗っているかのように、ユラユラと長い時間揺れつづけたという。舞台上ではストッパーの掛かったグランドピアノが動きだし、ステージマネージャーが客席に滑り落ちないよう懸命に支えた。

「揺れが一段落した後、建物の外に避難しました。雪がちらつくなか、みんな呆然と立ち尽くし、楽器を手にしたままのメンバーもいました。ホールに居たのが幸いしたのか、人的被害も楽器の被害もほとんどありませんでした。高台にある自宅は建物自体は損傷を免れたものの、窓枠が外れ、家具の大半が倒れていました。とくにレッスン室は足の踏み場もない状態でした」

『音楽の力による復興センター』の立ち上げ

自らも被災者である仙台フィル。本拠地である青年文化センターが当分使い物にならず、6月までの定期演奏会中止が決まった。しかし、この非常時に我々に何かできることはないかと、事務所スタッフと楽団員が話し合い、いち早く『音楽の力による復興センター』事業の立ち上げを決めた。被災地や避難所を直接訪れてコンサートを開く、そのための資金と出演アーティストを募る、という活動を目的としている。

「我々にできるのは演奏して被災者を癒し、励まし、サポートすることしかない、それが話し合った結論でした。3月26日に仙台市内の見瑞寺で『鎮魂、そして希望』と銘打ち、最初の復興コンサートを開き、予想以上のお客様を集めました。以後、弦



▲ 被害を受けた戸田さん宅のレッスン室

楽四重奏や木管五重奏など少人数の編成で、被害を免れた市内施設での37日間マラソンコンサートや、様々な場所での街角コンサートなどを開いています。今後は徐々に街なかから、避難所での開催にシフトしていく予定です」

励まし、励まされ

慰問演奏会では、亡くなった方々への鎮魂をこめて『G線上のアリア』を必ず演奏し、その他は明るい気持ちになる曲、そして最後は『ふるさと』を合唱するのが流れになっている。被災者を元気づける趣旨で行う被災地での演奏だが、「一緒に頑張ろう」と逆に励ましの言葉を掛けられることも多い。津波の被害をもろに受けた岩沼市の玉浦小学校での演奏会では、震災前と変わらない笑顔で子供たちが迎えてくれ、『となりのトトロ』や『BELIEVE』を大声で一緒に歌ってくれた。その元気な姿を見て、戸田さんは「大丈夫、未来は明るい」という思いを強くした。

▲ 仙台市内AERアトリウムでのマラソンコンサート

仙台フィル自体の窮状に、手を差し伸べてくれる音楽仲間も次々と現れた。4月18日にはオーケストラ・アンサンブル金沢に招かれて石川県立音楽堂で、また21日には東京のサントリーホールで在京音楽家有志との合同コンサートを開催し、ともに大盛況だった。他にも各地からコンサートの依頼がある。

「3月の時点ではオーケストラの存続すら危ぶまれる状況だったのに、こんなに早く舞台に立てるのかと、本当にありがたく思いました。金沢ではお客さん全員が立ち上がって温かい拍手を送ってくださり、楽団員はみな涙、涙でした」

▲ 岩沼市立玉浦小学校での慰問コンサート

心の深いところに届く音楽

震災直後は、生きていくこと、自分のことで精一杯だった。戸田さんもいつ開くか分からないスーパーの列に並び、娘さんと一緒に空のペットボトルを抱えて給水所の列に並んだ。

平成22年度音楽学部新人演奏会

平成23年4月26日　津田ホール

星野美香（ファゴット）

伊藤茉那（ソプラノ）

後藤博亮（ヴァイオリン）

山田祥子（ピアノ）

二井田ひとみ（トランペット）

下田典子（ソプラノ）

林 辰樹（ピアノ）

「いつまでこの状況が続くのか…」と心配したが、仙台市内は1ヵ月でほぼ元通りに復旧した。

「私自身のことで言えば、震災直後、常に頭の中を流れていた音楽がピタッと止まってしまいました。楽器にも触れられない、音を出すことに抵抗がありました。本能的に『こんなことをしている場合じゃない』と感じたのでしょうか。極論すれば、生きるか死ぬかという状況では音楽は無力かもしれません。でも時間がたつ中で、演奏することで何かが溶けていく、固まっていたものがほぐれていく、そう実感しました。それが音楽の力。人間が人間らしくあるために、音楽は絶対必要です。音楽から受ける感動、感激は一過性のものでなく、心の深いところまで届き、明日へと続いていくものなのです」

▲ 仙台フィル第214回定期演奏会（2006年10月13･14日　仙台市青年文化センター）

▲ 東北大学病院での慰問コンサート

フルート一色の学生時代

中学の吹奏楽部で始めたフルート。最初は独学だったが、徐々にのめり込み、高校進学と同時に名古屋フィルハーモニー交響楽団の村田四郎先生に師事した。高校が普通校だったため、練習時間が思うように取れないのが何より辛かった。

「その反動でしょうか、武蔵野時代はまさにフルート一色。当時まだ20代の前半だった佐久間由美子先生も非常に熱心に指導してくださり、充実の4年間でした。友達もみな温かく、競争というようなギスギスした感じは全く無かったですね。練習棟でも声を掛け合い、譜面を持ち寄って

平成22年度大学院修士課程新人演奏会

平成23年5月18日　津田ホール

石川恵理（コントラバス）

福士紗希（ソプラノ）

大澤悠子（ピアノ）

明神適子（マリンバ）

川口詩子（ソプラノ）

金子 淳（ピアノ）

しょっちゅうアンサンブルをしました。個人の能力を磨き、技術を高めることは必要ですが、本来、音楽は競争じゃないし、とても良い経験だったと思います」

現在、戸田さんは非常勤講師として母校で後輩を指導している。先輩として在学生へは何より時間を大切にして欲しいと言う。

「4年間なんてあっという間です。限られた時間のなかで、精一杯のことをして欲しいですね。練習も闇雲にするのではなく、いかに効率良くできるか頭を使うこと。先生に直接指導して貰う時間はほんの僅か、それ以外の時間をどう自分で考え行動するかが一番大事です」

まだまだ続く復興サポート

被災地の全てが復興するまでには、まだまだ長い道のりが待っている。『音楽の力による復興センター』事業も終わりは設定していない。かつて公演をした三陸地方でオーケストラの演奏会が開けるようになるまで頑張ろうと、楽団員同士で話し合っている。仙台フィルとしても、青年文化センターが使えないあいだ、仙台市内の常盤木学園高等学校のホールが借りられることになった。復興定期コンサートを無料で開催する運びだ。

「私に与えられた演奏、仕事をできる限り良い結果が残せるようにこなす。それが仙台フィルのため、ひいては自分のためになると思い、今後も努力していくつもりです。正直言って、すべきことが多くて思うように練習時間が取れないのが現状。忙しいなか、どう練習時間を捻出するか、確保するかが課題ですね。指導の面でも、武蔵野に育ててもらった恩返しのために力を入れていきたいと思っています」

(5月17日取材、文責編集部)

被災者に やさしく寄り添う音楽を

民里 元 2等陸曹

陸上自衛隊 東北方面音楽隊トロンボーン奏者

民里 元 *Hajime Tamisato*

1982年生まれ、神奈川県横浜市出身。小学4年の頃マーチングを通じてトロンボーンを始める。神奈川県立弥栄東高等学校(現弥栄高等学校)3年の頃に武蔵野音楽大学附属音楽教室の受験コースに入り、それがきっかけで武蔵野音楽大学に進学を決める。在学中、成績優秀者演奏会に選抜される。トロンボーンを前田保、井上順平、亀谷彰一各氏に師事。現在、陸上自衛隊東北方面音楽隊にて技術陸曹としてトロンボーン奏者を務めている。

クレッシェンドのような揺れ

民里さんたち東北方面音楽隊は、仙台市青葉区にある東京エレクトロンホール宮城の舞台上で、翌日開かれる第47回定期演奏会のリハーサル中だった。マーラーの曲を演奏していた。最初に揺れを感じたとき、2007年に起こった中越沖地震を思い出したという。

「いきなりドカーンという揺れではなく、まるでクレッシェンドのようにどんどん揺れが強まっていきました。舞台上にはライトの破片が雨のように降ってきて、そうこうするうちに、客席の天井の一部が崩落。すごい音とともに、いくつかの席を押しつぶしたんです。一日ずれて、そこにお客様がいたらと思うとぞっとしましたね。揺れがおさまってからは、すぐにホールの外に出て市民の避難誘導をしました。定禅寺通りには人が溢れ、みんなどうしたらいいのか分からずに立ちすくんでいるという感じでした。その後2時間以上かけて歩いて庁舎に戻り、テレビで初めて津波や火災の映像を目にし、その凄まじさに頭が真っ白になりました」

音楽は心の薬

東北方面音楽隊の被災地への慰問演奏は、3月26日から始まり、5月15

▲ 宮古市立津軽石小学校での慰問演奏

▲ 岩沼市総合体育館前広場での慰問演奏。右は熱演中の民里さん。

日現在、38回を数えている。

「慰問先では、手をにぎり、目を見て話すというように、皆さんとのふれあいを大切にしています。演奏に関して心がけているのは、我々の音楽を聴いて、まず今の辛さを忘れて欲しい、そして今を忘れるだけでなく、明日から頑張ろう、この困難を乗り越えようという活力を与えられたらということ。演奏する曲目は、ポップス、演歌、童謡、クラシックなど、聴いてくれる方が喜ぶのであれば何でもやります。『上を向いて歩こう』や『愛燦燦』は定番ですし、いま一番受けるのは、いきものがかりの『ありがとう』ですね。聴いてくださった方々のほとんどが涙され、終了後には何度も頭を下げてお礼を言ってくださいます」

中学校の武道場に避難しているある中年男性がいた。ご自身は難を逃れたものの、兄夫婦が行方不明。避難所での厳しい暮らしと連日の捜索で心身ともに疲れ切っているとき、民里さんたちの演奏を聴いた。美空ひばりのメドレーに、涙がとめどなく流れた。

「その方が私の手を取り、涙ながらに言うんです。音楽を聴いて、震災後、自分が感情を無くしていたことに気づいた。ずっと無感情だったのが、やっと人としての感情を取り戻せた、と。音楽が心を解放し、人間らしさを回復するきっかけになったんだと思います。音楽こそ心の薬だと実感しました。そういう意味で、人の生活になくてはならないものなんですね」

国のために
自分の能力を活かす

自衛隊には陸・海・空あわせて32の音楽隊がある。音楽隊員になれば演奏活動が主な任務となるが、自動車整備、物品管理、体力錬成なども日々行い、東北方面隊では定期的に体力検定、射撃検定も受けなくてはならない。武蔵野音楽大学と自衛隊の音楽隊とは縁があり、音楽隊の顔とも言える中央音楽隊、そして民里さんの所属する東北方面音楽隊の歴代の隊長には、武蔵野の出身者が何人も名を連ねている。

「私が音楽隊を希望したのは、自分が習ってきたことや特技を活かして人のため、国のために働けるのはここしかないと考えたからです。音楽の力で国に貢献できる素晴らしい職業だと思います。音楽隊はその基本的な姿勢として、芸術を追究するというより、聴いてくれる方あっての存在だという考えがまずあります。当然芸術ではありますが、より大衆化した存在とでも言うのでしょうか。東北方面音楽隊の活動としては、東北6県のエリア内で依頼を受けて訪問する派遣演奏が年間を通して多くある他、大きな舞台として定期演奏会、5月の青少年コンサート、我々が企画する9月の音楽フェスティバルがあります。仙台七夕まつりのパレードにも毎年

▲ 岩沼ふれあいコンサート（2010年10月23日、岩沼市民会館）

▲ 東松島市小野市民センターでの慰問演奏

参加しています」

今に役立つ武蔵野での体験

自衛隊生活でのさまざまな場面で、武蔵野の4年間で身についたことが活かされているという民里さん。学友会副会長、学園祭実行委員長の経験は、ご自身が中心になっている音楽フェスティバルの企画運営や後輩の指導に、学園の理念である3P主義や恩師 井上順平先生から学んだ人と人の絆の大切さと協調性は、規律正しい集団行動に役立っている。

「武蔵野の良さは、やっぱり『人』ではないでしょうか。先生方はもちろんのこと、先輩、同級生、後輩――私が武蔵野で出会った人たちは、全員が音楽に対して真剣であり、魅力的かつ個性豊かです。自衛隊の人間もそれなりに強い個性を持っていますが、私の実感として、武蔵野の方が良い意味でより個性的な面々が揃っているような気がします」

充実した学生生活を送ったようにみえる民里さんだが、ご本人は「今からでも、もう一度大学に行きたい」と話す。

「和声、音楽史などもっとやっておけば良かった、授業をもっと真剣に受ければ良かったと後悔しています。自分が学びたくて大学に入ったのだから、何事にも積極的に臨むべきでした。後輩たちにアドバイスするとしたら、まず自分の将来にビジョンを持って欲しい。そして、そのために今なにをなすべきかを真剣に考えて欲しい。そうしないと社会に出てからきっと後悔します」

要請のある限り応えたい

「自分自身の今後の抱負といえば、とにかく一歩一歩、着実に前に進んで行きたいと思います。先輩隊員に比べれば、知識も技術も技能もまだまだ未熟ですから。音楽隊員としては、自己満足で終わらないということを常に念頭に置いていたいですね。人の望む音楽を優先して提供すること、それが我々に課された任務です。復興にはこれから先、5年、10年はかかるでしょう。我々は自分たちで『もういいだろう』と判断するのではなく、要請がある限り、いつまでも全力で応えていく覚悟です」

慰問演奏で被災者を励ます音楽隊だが、集まってくれた子供たちから逆に元気をもらうことも多いという。

「ある避難所で小中学校の合唱曲の定番『BELIEVE』を演奏したとき、近くの幼稚園の園児たちが一緒に歌ってくれました。まるで天使のような歌声に心が洗われ、被災者の方々もみんな微笑んでいました。演奏を終えて帰る我々のバスを、いつも大勢の子供たちが敬礼をして見送ってくれます。最近では、大きくなったら自衛官になりたいという子供が増えていると聞きます。こんなに嬉しいことはありませんね」

(5月15日取材、文責編集部)

・音・楽・余・話・ それぞれの登山ルート

ある時、生徒から、「先週、奥様から先生とは正反対のことを言われたのですが、いったいどうしたら良いでしょうか」と、たずねられた。

げに、私がこれまで60年近く人生を共に歩んできた妻ジュリアは、私と同じピアニストであるという共通項を除いては、昔も今も、性格から物事の考え方まで、あらゆる点で私と違っている。

我々はピアノ・デュオの演奏者としても長年共演してきたが、準備段階では、解釈の違いをめぐって毎回、まず喧々諤々の議論になるのが常であった。しかしながら、演奏会や録音の本番が近づくにつれ、あたかも山の頂上で、別ルートから来た二人の登山者が出会うかのごとく、双方の距離が消え去り、ひとつにまとまるのであった。タッチも個性も異なるピアニストが、まるで一人の奏者のように融合する、こうしたピアノ・デュオの妙については、また別の機会に述べるとしよう。

さて、私と妻それぞれのレッスンを受けた生徒たちが、時にその違いに当惑するのも私は承知している。にもかかわらず、我々がしばしば、それぞれの生徒を託し合うのは、そうすることによって、彼らが目指す頂上を自覚し、自分のルートを切り開いて行くことを、長年の経験で確信しているからに他ならない。

ゆえに、冒頭の質問にも、私は淡々とこう答えたのである。「両方試してごらん」

(訳:重松万里子)

コンスタンティン・ガネフ
(本学客員教授)

海・外・音・楽・事・情

モスクワ音楽院から世界の舞台へ ❶

●イリヤ・イーティン教授（ピアノ／本学客員教授）●

今年4月より、本学の客員教授として学生の指導にあたっておられるイーティン先生。ロシアのエカテリンブルクに生まれ、モスクワ音楽院に学んだロシア・ピアニズムの正統的な継承者である先生に、幼少の頃のエピソードや音楽院のこと、そしてご自身の音楽人生とその中で出会った恩師や仲間についてお話を伺いました。今号と次号の2回にわたってお届けします。なお聞き手は、本学福井直昭教授です。
（5月13日 インタビュー）

イリヤ・イーティン *Ilya Itin*

モスクワ音楽院にてL.ナウモフに師事。ウィリアム・カペル国際ピアノコンクール第2位、ロベール・カサドシュ国際ピアノコンクール第1位、1996年リーズ国際ピアノコンクールにおいて優勝。クリーヴランド管弦楽団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団等と協演する他、S.ラトル、N.ヤルヴィ、V.シナイスキー、M.プレトニョフなど著名な指揮者と共演。ニューヨーク市立大学、プリンストンのゴランスキー・インスティテュートにて教鞭をとり、ジュリアード音楽院にも度々招かれている。'11年4月から本学客員教授に着任。

5歳でモーツァルトを演奏

福井　ピアノを始められたのは何歳頃ですか？

イーティン　実は覚えていないのです。というよりも正確に言えば、ピアノを「弾いていなかった」時のことを覚えていません。両親共に音楽家ではありませんでしたが、家にはピアノがありました。そして私はまだきちんと歩けなかった頃から、トコトコとピアノのところにいって弾いていたらしいのです。おもちゃ感覚でね。

福井　それは凄いですね。そうなると1歳くらいですか？ そんな赤ん坊がどうやって弾いたのでしょう？

イーティン　1歳、あるいは2歳になっていたかもしれませんが…なにしろ覚えていないもので(笑)。とにかくラジオから聴こえる音楽を耳で覚えて、なんでも弾いていました。5歳くらいでモーツァルトを弾いていたことは、しっかり覚えています。

福井　楽譜なしで、子どもが独学でモーツァルトですか？ それはモーツァルト並の神童ですね(笑)。

イーティン　少なくともその頃までは、全く楽譜を読んだことがありませんでした。そして5歳半の時、祖母にソ連(当時)のスヴェルドロフスクにあった、才能がある子どもの為

の学校に連れて行かれました。私はピアノに関しては自信満々だったので、最初のレッスンに行った時の気持ちを今でも覚えています。「どうしてわざわざピアノを習いにいくのだろう？」と(笑)。そしていざ先生の前でピアノを弾いたのですが、彼女は私の演奏を全く褒めてくれませんでした。その代わりにこう言いました。――「さあ、今から音楽を学びましょう」。私はピアノを弾くといつでも周りから褒められてきたし、なんといってもピアノを「勉強」したくはなかったのでかなり憤慨したのですが…。とにかくこれがその後18歳まで習い続けることになる、リトヴィンノヴァ先生との出会いでした。

福井　先生の下、いよいよ楽譜を読み始めることになるわけですね。

イーティン　勿論当初は苦痛でした。相変わらず他人が横で弾いているのを聴けばすぐ弾けたのですが(笑)。

▲ 武蔵野音楽大学江古田キャンパス

ある時バッハの小品が宿題に出たのですが、私は楽譜を見ずに丁度ラジオから流れていたものを聴いてマスターし、次のレッスンにもっていきました。ところが先生は、私の演奏を聴いて大変驚いた様子でした。

福井　完璧に弾けていたからですか？

イーティン　いや、なんとラジオから流れていたバッハは、実は録音テープの回転数の関係か、半音くらい下がって放送されていたようで…。私は全てその通りに弾いてしまったのです。おかげで楽譜をみなかったことがバレて、先生には怒られました。

福井　失礼ながら、さすが旧ソ連ならではの出来事ですね(笑)。演奏が始まった瞬間のリトヴィンノヴァ先生のお顔が想像されます。さて先ほど13年もの間、先生の下で勉強したと伺いましたが、どのような事を学ばれましたか？

▲ 本学でのレッスン風景

イーティン　とにかくどんな曲も完璧になるまで教えてくださいました。完璧というのは、「全ての音が明確になるまで」という意味です。これはロシアの伝統的な流儀でもあります。自分の弾く音をどのように聴けばよいかを教えてくださった先生には、今でも大変感謝しています。

ナウモフ教授のレッスン

福井　その後モスクワ音楽院に入学され、“ロシア・ピアノ楽派の領袖”との異名を取ったレフ・ナウモフ教授に師事されました。ナウモフ教授をご紹介ください。

イーティン　ナウモフ先生は、伝説のピアニストであるゲンリフ・ネイガウスの高弟として長年後進を指導されました。武蔵野に長年いらっしゃるガネフ先生ご夫妻も同じネイガウス門下ですから、ナウモフ先生をよくご存知のはずです。ナウモフ先生は、ネイガウスの息子スタニスラフ(スタニスラフ・ブーニンの父)や、エフゲニー・マリーニンとともに3人でネイガウスの助手を務め、1955年ネイガウスが没するとその後任教授として迎えられ、没年まで半世紀にわたってモスクワ音楽院で教鞭を執られました。

福井　教授のレッスンはいかがでしたか？

イーティン　実はナウモフ先生に習い始めた頃は、かなり当惑しました。と言うのも、先生は私の演奏を聴くと毎回「OK !」とおっしゃり、特に悪い箇所や間違いを指摘されなかったからです。従って先生が私に何を求めるのかが非常に分かりにくく、また曲を細かく教えてくださるというよりは、全体の雰囲気や考えるべきことの示唆だけをされたため、あとはそれを成し遂げるために自分自身で頭を使い練習しなければなりませんでした。そういった意味では、入学前のリトヴィンノヴァ先生のレッスンとは180度違っていたと言えます。しかも毎回の「OK!」で自信を持たせておきながら、演奏会前になると急に「全く良くない。これは惨事だ」なんて言われたりして(笑)。しかし長い月日をかけ先生独特の音楽に対するイマジネーション、ヴィジョンが理解できるようになってからは、私にとって先生のレッスンは大変充実したものになりました。先生は作曲家でもありましたから曲の構造に関しては大変うるさかったのですが、先生の分析は無味乾燥ということは全くなく、曲全体をまるで巨大な建造物の様に示してくださいました。また先生は「音楽はいつも『生きて』いなくてはならない」とおっしゃっていました。

▲ 入間キャンパス

同門スルタノフの思い出

福井　ナウモフ教授といえばアンドレイ・ガブリーロフら実に数多くの有名なピアニストを育てられましたが、イーティン先生と同世代では他に誰がいますか？

イーティン　私の2つ下にアレクセ

イ・スルタノフがいます。スルタノフはご存知の通り、ヴァン・クライバーン国際コンクールに19歳で優勝し、1995年ショパン国際コンクールでは最高位(1位なしの2位)となり、世界中の聴衆を虜にしました。その後突然の病で倒れたあと、必死のリハビリで再起をかけましたが、35歳で惜しくも亡くなりました。我々は一時同じテキサスに住んだこともあります。スルタノフは日本でも大変人気があったのではないですか？

福井　おっしゃる通りで、私も大好きなピアニストでした。亡くなった現在でも多くのファンがいます。

イーティン　門下生に対し家族のように接してくださったナウモフ先生は、スルタノフや私をお誕生日にご自宅に呼んでくださいました。また先生がドイツでマスターコースを開いた時は、私とスルタノフは模範演奏者として同行させて頂きました。

福井　そういった精鋭たちと共に、モスクワ音楽院ではまさにロシア・ピアニズムを正統的に継承したわけですね。イーティン先生は数多くのコンクールに入賞されましたが、音楽院在学中のコンクールのご経験をお聞かせください。

イーティン　22歳の時に、ロシアのラフマニノフ・コンクールで第2位になりました。ちなみに、この時2位を分け合ったのがニコライ・ルガンスキー(1994年のチャイコフスキー国際コンクール1位なしの2位)です。実はこの時の本選で、生まれて初めてオーケストラと協奏曲を弾きました。本選に進めるとは思ってもいなかったし、モスクワ音楽院大ホールは超満員だったので、大変緊張したのを覚えています。聴衆から何度も拍手を受け、大変エキサイティングでした。

▲ 本学インターナショナル・サマースクールでのピアノ・リサイタル(2010年　ベートーヴェンホール)

福井　モスクワ音楽院卒業後、いよいよ多くの国際コンクールでのご活躍やそれに伴う本格的な演奏活動が始まりますが、そのあたりはまた次号にてお聞かせ頂ければと思います。

音楽の万華鏡 16

久野久の墓

久野久(1886-1925)は日本人初のピアニストと言われ、中村紘子氏が著書『ピアニストという蛮族がいる』(1992)でその劇的な生涯を紹介して以後、テレビ番組が作られたり、久野久にちなんだ演奏会が開かれたり、また私家版の伝記『「熱情」の使徒は二度甦る』(原田稔著)が出版されたりと、ふたたび光が当てられて来ているようです。

久は、滋賀県膳所町の富裕な商家に生まれ、足に障害を持ちながらも、15歳になってそれまでに学んだ邦楽からピアニストへの道に転向し、東京音楽学校予科に入学、本科、研究科と研鑽を積み、弱冠23歳で母校のピアノ科の助教授となります。その後自動車事故で瀕死の重傷を負いますが、復帰して音楽学校の教授となり、1918年に奏楽堂でベートーヴェンのピアノ・ソナタ5曲を演奏するリサイタルを開催し、ピアニストとしての名声を確固たるものにします。1923年には、人々の期待を担ってヨーロッパに留学しますが、25年にウィーンのホテルの屋上から身を投げ、38年の生涯を閉じました。交通事故以後の神経衰弱が原因とも、ウィーンで指導を受けたザウアーに酷評されて絶望したからともいわれています。

親交のあった彫刻家朝倉文夫がデザインしたという久の墓は、文京区小石川の伝通院の墓地の一角にあり、和洋の美しい調和をみせています。御影石の墓石の正面には、篆書風の字体で「久野久墓」と刻まれ、その下の土台部分には竪琴のレリーフが彫られています。大きな礎石の四隅に配された花活けには、色とりどりの花束が映えるように思います。柵はなく、解放的な墓域には、色の異なる庭石が配されています。

その墓の前に、寺の立てた札を見つけました。墓地継承者の連絡先が不明になっているというのです。札の日付は平成21年3月。洋楽導入期に、ピアノに生涯をささげて波乱の人生を送った久野久には、安らかに眠ってほしいと思います。縁者の方、お弟子さんなどを御存知の方はいらっしゃらないでしょうか。

薦田治子(本学音楽学教授)

始まりの季節を飾った春の学園行事

3月11日に発生した東日本大震災後、卒業式や卒業演奏会などの学事を取りやめるなど慌しい日々が続きましたが、春の訪れとともに再び、武蔵野音楽学園の大学、附属高校、3つの幼稚園に多くの新入生が集い、それぞれ平成23年度の新学期がスタートしました。

4月中旬、大学では1年次生のために、歓迎会が開かれました。先輩たちが企画したセレモニーや演奏会が入間キャンパス内で行われ、新入生たちは先生方と歓談したり、新しい仲間とも打ち解けて、今後の学生生活へ期待を膨らませ、胸を弾ませているようでした。

▲ 新入生歓迎会（大学）

高校では、新学期早々、若葉の鮮やかな入間キャンパスのグラウンドで体育祭が開催されました。クラス対抗で行われた各種目、特に団体戦では熱気あふれる盛り上がりを見せ、仲間との絆が一層深まりました。また、5月下旬には、2年生が修学旅行で広島・京都・大阪を廻りました。厳島神社の舞楽鑑賞や陶芸絵付け体験、京都での着付け・長唄三味線・日本舞踊の体験学習、能楽鑑賞と日本文化の伝統を学び、貴重な経験がたくさん詰まった4日間になりました。一方、1、3年生の校外学習が飯能の名栗川上流の山間にある自然豊かなキャンプ場で行われ、せせらぎを聞きながら、飯盒炊さんでそれぞれが思い思いのメニューにチャレンジして、楽しく過ごしました。

▲ 着物を着て三味線に挑戦（高校修学旅行）

第一、第二、武蔵野の各幼稚園では、春の遠足で遊園地や大きな公園に出かけました。快晴のもとでお友達と一緒に思いきり走り回り、みんなで仲良くお弁当を楽しんだり…園児たちの笑顔がはじける楽しい一日となりました。

▲ みんなで楽しくお弁当

多くの学びを提供した春期公開講座

日本吹奏楽指導者クリニック

国内外より吹奏楽の著名な講師やバンドを招き、指導法、コンサート、新譜紹介など、時代のニーズにあった内容を展開する「第42回日本吹奏楽指導者クリニック」（日本バンドクリニック委員会主催）が、5月13日～15日に浜松市で開催され、本学ウィンドアンサンブルが参加・出演しました。

▲ 本学ウィンドアンサンブル
撮影：（株）エーコーフィルムプロダクション

20年にわたり本学で指導をしてくださっている、本学名誉教授で、日本バンドクリニックの名誉顧問でもあるレイ・E.クレーマー先生の指揮のもと、1日目はウェルカムコンサートに出演。世界的なサクソフォーン奏者オーティス・マーフィー氏をソリストに迎えた、ネルソン作曲「ダンツァ・カプリッチョ」では、マーフィー氏の熟練したテクニックと学生たちの溌剌とした演奏が相俟った協演となりました。この他、吹奏楽のオリジナル作品を中心に武蔵野サウンドを披露し、クリニックに参加した多くの吹奏楽関係者から賛辞をいただきました。続く2日目には、吹奏楽曲の新譜などを研究する“レパートリー研究講座”で模範演奏を担当。このクリニックには全国各地で吹奏楽の指導者や教員として活躍している本学卒業生たちも数多く参加し、母校後輩の演奏や活躍にエールを送っていました。

オーティス・マーフィー客員教授サクソフォーン公開レッスン

米国・インディアナ大学で教鞭を

執る一方、サクソフォーン奏者として国際的に著名な オーティス・マーフィー氏の公開レッスンが、江古田キャンパスで開かれました(5月11日、通訳:重松万里子)。音の出し方やリードの仕組みなど、基礎から楽曲の表現方法にいたるまでの多面的な内容を熱心に解説され、聴講した学生たちはこれからの勉学へのさまざまな課題を手にした有意義な講座となりました。

伊原直子女史　声楽公開レッスン

日本の声楽界の第一人者として名声を誇る、伊原直子女史の声楽公開レッスンが5月25日 江古田キャンパスのベートーヴェンホールで開催されました。これまでご自身が培ってこられた豊富な経験と深い音楽性のもと、呼吸法や歌唱法を受講生それぞれの個性に合わせて丁寧に指導され、会場に詰めかけた音楽を志す学生や聴衆は、その意義深い講座に真剣に耳を傾けていました。

平成23年度別科を開設

武蔵野音楽大学は、平成23年度から大学別科を開設しました。これは、幅広い年齢層や異なる経歴、さまざまな学修の目的を持つ人たちを受け入れ、広く学びの場を提供することが求められる社会的ニーズに応えたものです。

修業年限は1年で、実技の個人レッスン(器楽・声楽・作曲・指揮の4コース)と基礎的な関連科目(音楽理論、西洋音楽史)を学修し、入学者は正規の大学生と認められます。

今年度は、18歳から63歳まで78名が入学し、それぞれが、さまざまな学修目標に向け、高い意欲を持って熱心に励んでいます。

▲ 平成23年度　別科入学式

平成22年度4名の博士が誕生

去る、5月21日、平成22年度武蔵野音楽大学大学院博士後期課程学位記授与式が執り行われました。

この度は、青木知東さん(研究領域:器楽／レオニード・クロイツァーの「再現芸術家」論)、中村真由子さん(研究領域:音楽学／近代における宮内省式部職楽部の研究－組織と活動)、孫承慧さん(研究領域:音楽教育／子どもの音楽的創造性の育成に関する研究)、高橋大海さん(研究領域:音楽学／18世紀前半のフランスにおけるコンチェルト－ボワモルティエの占める位置)の4名が、博士論文の最終審査で高く評価されて合格し、「博士」の称号が授与されました。

今後、それぞれの専門分野で、ますますの活躍が期待されます。

●表紙の顔

ケマル・ゲキチ教授

K.ゲキチ教授は、2006年に「武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ」の講師として初めて本学に招かれて以来、毎年本学の客員教授として着任し、指導に当たっています。

'62年クロアチア生まれ。'78年旧ユーゴスラビアのノヴィサッド音楽院でミハイロヴィッチのクラスに入学。'82年には史上最高得点でディプロマを取得し、直ちにピアノ科の教員に採用されました。'85年に音楽院の修士課程を修了。'81年国際リスト・ピアノコンクール第2位等、多数のコンクールで受賞を重ねました。特に'85年のショパン国際コンクールでは、聴衆の圧倒的支持を得て名誉賞受賞。その後世界各地で活発な演奏活動を展開し、熱狂的な聴衆の支持を受けています。その他、幅広いレパートリーでCD録音も積極的に行い、特にリストの演奏では第一人者として不動の地位を築いています。

去る6月には、今年F.リスト生誕200年に因み、本学ベートーヴェンホールで「オール・リスト・プログラム」の演奏会を開催し、絶賛を博しました。

現在、フロリダ国際大学教授。武蔵野音楽大学客員教授。

【今後の音楽活動】

◆ 10月4日(火)　リサイタル
19:00／東京文化会館小ホール　他

▲ 左から高橋大海さん、中村真由子さん
青木知東さん、孫承慧さん

栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

（前号までの未掲載分、順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの）

コンクール・オーディション名	部門	詳細	氏名	学年・専攻
第11回　メンデルスゾーン・カップ　ヨーロッパ（イタリア）	カテゴリーE	第1位入賞、ルービンシュタイン賞受賞	筈井　美貴	平成20年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程修了
スタインウェイコンクール・ミュンヘン（ドイツ）　ファイナル		第2位入賞	尾形　大介	平成12年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程修了
2011年　レオポルド・ベラン国際音楽コンクール（フランス）	室内楽部門	第2位入賞	松崎　智代	平成20年大学卒クラリネット専攻
			島田　歩美	平成20年大学卒ファゴット専攻
			中島　朱理	平成20年大学卒ピアノ専攻
第1回　ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際声楽コンクール（イタリア　モッタサンタナスタシア市）		ジャコモ・プッチーニ特別賞受賞	稲場　舞	平成10年大学卒声楽専攻
第2回　国際ヤングミュージシャンコンクール“アントニオ・サリエリプライズ”（イタリア）		第2位入賞（1位なし）	浅野　衣美	平成20年大学卒ピアノ専攻
平成23年度　文化庁新進芸術家海外研修制度		研修員（専門分野：ピアノ）としてハンガリーへ留学	阿久澤　政行	平成20年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程修了
新国立劇場オペラ研修所	第14期生	合格（平成23年4月入所）	林（倉田）よう子	平成15年大学卒声楽専攻　本大学院修士課程修了
			日浦　眞矩	平成20年大学卒声楽専攻　本大学院修士課程修了
平成23年度　奏楽堂日本歌曲コンクール	歌唱部門（第22回）	入選	武澤　佳絵	平成15年大学卒声楽専攻　本大学院修士課程修了
		入選	飯嶋　幸子	平成20年大学卒声楽専攻　本大学院修士課程修了
練馬区・（財）練馬区文化振興協会 第26回　練馬区新人演奏会出演者選考オーディション	金管楽器部門	優秀賞受賞	橘　佑梨子	大学4年次在学ホルン専攻
ヤマハ音楽支援制度　2011年度		音楽活動支援採用コンサート出演	飯野　智大	大学3年次在学打楽器専攻
第24回　エターナルピアノコンクール	PF専門課程部門	第1位入賞	宮崎　梨咲	平成23年大学卒ピアノ専攻　本高校卒 本大学院修士課程1年次在学
第2回　ジュラ・キシュ国際ピアノコンクール	一般部門	第2位入賞	鈴木　梨紗	平成22年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程2年次在学
第3回　フレッシュアーティスト・コンクール	一般アンサンブル部門	第4位入賞、フランス賞受賞	東村　桃子	平成20年大学卒フルート専攻　本大学院修士課程修了
			福田　直子	平成20年大学卒フルート専攻
			梅田　千鶴	平成20年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程2年次在学
第13回　“万里の長城杯”国際音楽コンクール	管楽器部門 大学の部	第6位入賞	根本　晴佳	大学3年次在学フルート専攻
	打楽器部門 大学の部	優秀賞受賞	町田　志野	大学2年次在学マリンバ専攻
	アンサンブル部門 一般の部A	奨励賞受賞	東村　桃子	平成20年大学卒フルート専攻　本大学院修士課程修了
			福田　直子	平成20年大学卒フルート専攻
			梅田　千鶴	平成20年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程2年次在学
	ピアノ部門 中学校の部	奨励賞受賞	大久保　領太	附属江古田音楽教室在室　山手学院中学校2年生
第49回　北九州芸術祭　クラシックコンサート	ピアノ部門 一般の部	部門優秀賞受賞	田島　朋子	平成16年大学卒ピアノ専攻
第3回　さくら音楽コンクール	ピアノ部門 一般A1	第3位入賞（2位なし）	谷地　紗織	平成21年大学卒ピアノ専攻
		奨励賞受賞	大友　藍花	平成17年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程修了 本特修科修了
第25回　レ・スプレンデル音楽コンクール	室内楽部門	審査員賞受賞	東村　桃子	平成20年大学卒フルート専攻　本大学院修士課程修了
			福田　直子	平成20年大学卒フルート専攻
			梅田　千鶴	平成20年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程2年次在学
アルテリッカしんゆり　詩と歌とお話のあるコンサート ～まど・みちお讃～		藤田作曲賞受賞	久保田　瑛子	本大学院博士課程2年次在学
第2回　全日本ジュニア・ピアノコンクール	ピアノ・ソロ部門 B課程	第4位入賞（1位なし）	横地　ちひろ	附属江古田音楽教室在室　桐蔭学園中学校2年生
	ピアノ・ソロ部門 E課程	第3位銅賞受賞	今成　彩乃	附属多摩音楽教室在室　聖セシリア幼稚園在園

第17回武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクールイン・トウキョウ開催中止のお知らせ

毎年、7月19日から29日まで開催している「武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ」ですが、今年は、この度の東日本大震災の影響により、残念ながら開催を取りやめることとなりました。この開催中止を受け、招聘予定だった十数名の教授たちからは、「この度の日本の大災害に対して心からお見舞い申し上げます。日本は必ず復興を遂げると信じています。今回、日本に行けないことをとても残念に思いますが、次の機会には是非武蔵野に伺いたいです」との温かい言葉をいただきました。

平成24年度入学試験要項請求について

武蔵野音楽大学音楽学部第1年次、武蔵野音楽大学附属高等学校の平成24年度入学試験要項は、本学江古田キャンパスで取り扱っています。要項をご希望の方には無料でお送りいたします。本学ホームページ、携帯サイトの資料請求フォームよりご請求ください。お電話でお申し込みされる場合は、氏名、住所、電話番号および大学、高校の別をお知らせください。なお、夏期受験講習会受講の方には、講習期間中に配付します。

【お問合せ・請求先】武蔵野音楽学園広報企画室
〒176-8521　東京都練馬区羽沢1-13-1
TEL.03-3992-1125（広報企画室直通）

平成23年度同窓会全国総会のお知らせ

平成23年度武蔵野音楽大学同窓会全国総会は、来る8月5日（金）午後6時より、東京都「リーガロイヤルホテル東京」にて開催いたします。お誘いあわせの上、ぜひご来会ください。

平成23年度7月～9月公開講座・演奏会のお知らせ

武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会　7月 1日(金) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田)　¥1,000〈全席自由〉
指揮＝クルト・ゲントナー　クラリネット独奏＝平田彩圭(大学院修士課程1年)
曲目＝モーツァルト:クラリネット協奏曲 イ長調 K.622、ハイドン:交響曲 第91番 変ホ長調　他

天羽明惠　ソプラノ・リサイタル　7月 5日(火) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田)　¥1,000〈全席自由〉
ピアノ＝子安ゆかり
曲目＝R.シュトラウス:C.ブレンターノの詩による6つの歌曲 Op.68 より、ヴォルフ:メーリケ歌曲集 より、ミヨー:4つのロンサールの歌　他

ヴィルフリート・シュトレーレ(Va.)　公開レッスン＆コンサート　※都合により中止となりました。
ピアノ＝小池ちとせ　7月 9日(土) 17:00 447室(江古田)　¥1,000〈全席自由〉

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会　7月11日(月) 18:30 京都会館 第一ホール　一般¥1,500/小中高¥1,000〈全席自由〉
指揮＝レイ・E.クレーマー　7月12日(火) 18:30 愛知県芸術劇場 コンサートホール
曲目＝P.A.グレインジャー:リンカンシャーの花束　一般¥1,500/小中高¥1,000〈全席自由〉
F.ティケリ:エンジェルズ・イン・ジ・アーキテクチャー　7月15日(金) 18:30 東京オペラシティ コンサートホール　¥1,500〈全席指定〉
2011年度全日本吹奏楽コンクール課題曲より　他（7/15 東京公演の収益金は、東日本大震災義援金として日本赤十字社へ寄託します。）

武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会　9月 4日(日) 15:00 川越市市民会館　一般¥1,500/小中高¥1,000〈全席自由〉
指揮＝カールマン・ベルケシュ　9月 9日(金) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール　¥1,500〈全席指定〉
ピアノ独奏＝奥村奈々(大学3年)／9月9日、11日　9月11日(日) 15:00 帯広市民文化ホール 大ホール
岩永圭司(大学院修士課程1年)／9月4日、13日　一般¥1,500/小中高¥1,000〈全席自由〉
曲目＝グリンカ:≪ルスランとリュドミラ≫序曲　9月13日(火) 18:30 旭川市民文化会館 大ホール
グリーグ:ピアノ協奏曲 イ短調 Op.16、ブラームス:交響曲 第2番 ニ長調 Op.73　一般¥1,500/小中高¥1,000〈全席自由〉

武蔵野音楽大学室内合唱団演奏会　9月29日(木) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田)　¥1,000〈全席自由〉
指揮＝栗山文昭　曲目＝三善晃編曲:「唱歌の四季」、J.S.バッハ:カンタータ《キリストは死の絆につかせたまえり》BWV4　他

武蔵野音楽大学附属高等学校音楽科　在校生と新卒業生によるコンサート
※お問合せ＝武蔵野音楽大学附属高等学校　TEL.04-2932-3063　9月30日(金) 18:30 王子ホール　¥2,000〈全席自由〉

お問合せ　●武蔵野音楽大学江古田キャンパス演奏部　TEL.03-3992-1120　●武蔵野音楽大学入間キャンパス演奏部　TEL.04-2932-3108
※講師の病気、その他やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。
※チケットは武蔵野音楽大学ホームページ http://www.musashino-music.ac.jp/ でも予約ができます。

平成23年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校　夏期講習会のお知らせ

講習会名	実施期間	申込受付期間	会場
音楽大学受験講習会	第1期　7月28日～7月31日	7月 1日～7月14日（消印）	江古田キャンパス
	第2期　8月 2日～8月 5日	7月 1日～7月16日（消印）	入間キャンパス
高校音楽科受験講習会	8月 2日～8月 4日	7月 1日～7月16日（消印）	入間キャンパス
免許法認定講習	7月25日～8月 5日	7月 1日～7月14日（消印）	江古田キャンパス
社会人のための夏期研修講座 ※	7月22日～7月24日	6月27日～7月11日（消印）	江古田キャンパス

※社会人のための夏期研修講座は、下記の Ⅰ・Ⅱ より各1講座、Ⅲ より2講座を選択します。

Ⅰ ●中学生・高校生のためのピアノ指導法　●声楽指導法（ドイツ・リートの歌唱法、英語歌唱法、発声技術の効果的な指導法）
●編曲法の実際（ピアノ曲を吹奏楽に編曲するための基礎知識）　●音楽科指導の実際（中学校を中心とした学習指導要領の理解と指導）

Ⅱ ●小学生のためのピアノ指導法　●器楽合奏（打楽器の基礎的な奏法と指導法）　●ソルフェージュ（音楽能力を育てる具体的な方法）
●教材研究（ソナチネやワルツなどのピアノ作品）

Ⅲ ●合唱指導　●講話（カストラートの歴史や特徴、バロック時代の舞踏や舞曲について）　●カール・オルフの音楽教育
●個人レッスン（ピアノ、フルート、リコーダー、声楽のうちから1種類を選択）
●パイプオルガンのたのしみ「モーツァルトホールのパイプオルガンの魅力」　●音楽療法入門　●楽器学入門（金管楽器の歴史）

※上記の他に行われる演奏会は、受講者全員を対象としています。

◎実施日程、会場が昨年と変更となっている講習会があります。詳細は要項でご確認ください。
◎講習会要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室　(TEL.03-3992-1125) またはホームページ、携帯サイトにてお申し込みください。
（要項は無料、郵送料は学園が負担します）　ホームページ：http://www.musashino-music.ac.jp/　携帯サイト：http://musaon.jp/

編集後記

指揮者ズービン・メータの言葉「平和は音楽の中にこそある。苦しむ人たちの前で音楽を奏でるために、私たち音楽家がいる」(4月18日、朝日新聞夕刊)。東日本大震災の被災地、避難所に流れるメロディーが、被災者を癒し、励まし、力づけている。武蔵野の先輩、仙台フィルの戸田さんも自衛隊音楽隊の民里さんも、人が人らしくあるために音楽は必要だとおっしゃいます。そんな素晴らしい音楽を学ぶことの意味と喜びを、あらためて考えてみたいものです(編)。

マホラトゥック　タイ　直径54cm

マホラトゥックは、タイにおける「銅鼓」の呼称である。銅鼓は中国南部から東南アジアにかけて広く使われる青銅製の太鼓で、その起源は紀元前にまで遡る。この楽器が他の楽器と異なるのは、その研究がもっぱら考古学的観点によりなされてきたところにある。

銅鼓は古いもので紀元前400年頃からその用例が見られる。最初の研究はドイツのマイヤーによるもので、彼は1884年に『東インド諸島からの古代遺物』を発表し、その中で52点の銅鼓を取り上げた。その後、1902年にウィーンのヘーガーは165点の銅鼓を大きく4つのタイプに分類し、この分類を皮切りに銅鼓の歴史研究が世界各国で始まった。銅鼓に刻まれた太陽紋や鳥紋などの具象紋、菱形や円形などの幾何学紋、さらに接着された蛙や象などの立体像などは、地域と製作年により特徴が異なる。そのため、この楽器の分類と編年の作業が、東南アジアの青銅器文化解明の有力な手掛かりとなった。銅鼓を通して、この地域の考古学資料に地域と実年代を特定できるからである。

銅鼓は現在でも儀器として新築、葬儀、治療の儀式などで使われている。演奏に際しては、鼓面が横を向くように紐で吊しバチで打奏する。この楽器は聖なる楽器として精霊が宿ると考えられており、そのために精霊を起こさないように普段は日常空間から離して保管され、しばしばその使用に先立ち供養の儀式が行われる。写真の楽器はヘーガー分類第Ⅲ式に属す典型的なタイの銅鼓で、17～8世紀のものをモデルにした20世紀の複製品である。鼓面の4箇所に置かれた蛙の立体像（写真）からは、この楽器と雨乞いの儀式との関連を窺うことができ、さまざまな儀式に使用されてきた銅鼓の歴史を物語る資料といえよう。

（武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵）

目　次

東日本大震災への学園の対応 …… ❶

音楽の力を信じて …… ❷
人が人らしくあるために必要な音楽　戸田 敦
被災者にやさしく寄り添う音楽を　民里 元

音楽余話 …… ❼
それぞれの登山ルート　コンスタンティン・ガネフ

海外音楽事情 …… ❽
モスクワ音楽院から世界の舞台へ①　イリヤ・イーティン

音楽の万華鏡 …… ❿
久野久の墓　薦田治子

MUSASHINO NEWS …… ⓫
- 始まりの季節を飾った春の学園行事
- 多くの学びを提供した春期公開講座
- 平成23年度別科を開設
- 平成22年度 4名の博士が誕生
- 栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）
- 第17回 インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ 開催中止のお知らせ
- 平成24年度入学試験要項請求について
- 平成23年度 同窓会全国総会のお知らせ
- 平成23年度7月～9月公開講座・演奏会のお知らせ
- 平成23年度夏期講習会のお知らせ

武蔵野音楽大学大学院
博士前期課程・博士後期課程
武蔵野音楽大学
武蔵野音楽大学別科
武蔵野音楽大学附属高等学校
武蔵野音楽大学第一幼稚園
武蔵野音楽大学第二幼稚園
武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園
附属音楽教室 江古田・入間・多摩

発　行
学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス　●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121（代表）
入間キャンパス　●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111（代表）
パルナソス多摩　●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711（代表）
http://www.musashino-music.ac.jp/

2011年7月1日発行　通巻第98号
携帯サイト http://musaon.jp/